

裏面

続き。

カフェに行く。あんなカフェははじめてだった。あんな部屋がほしい。

帰って夕飯で、銭湯行って。銭湯でしゃべったおばあちゃんがいい人だった。で、買ってもらった服をきる…ふわふわすかーと…。

そのまま京都駅の大階段でレモンティーをのみながらサンドイッチもしましや。

3日目

5時おき。6時に下へ。で、絵を描く。

8時半くらいにバスにのって、朝マック（初）

三十三間堂へ。おかあさん（そっくりな仏像さん）がいた。

その次。清水寺。胎内めぐりってやつをした。ちょっとこわかった。清水寺に行く。ニュースでやってたとおり、ピンヒール（？）のあとがたくさんあった。高い。清水の舞台からは飛びおりません。

恋愛の神さんとこ行った。うん。じゃまされた（笑）

カフェで昼食…だったけど、アイスコーヒーだけにした。

解散はちょっとさみしかった。もう終わり？って感じで。

また行きたい。みんなで。

2006.9 某日

C

P.S. みなさんお世話になりました。

これは、約10年ほど前、高校1年生Cさんが参加した第1回町家合宿の感想文である。



☆リピーターの多い町家合宿

10年以上、町家合宿をしているが、町家合宿にはリピーターが多い。毎年半数ぐらいはリピーターである。今回はそんなリピーターの一人であるCさんの感想文を紹介しながら、町家合宿の雰囲気伝えたいと思う。

☆Cさんについて

Cさんと私の出会いは、Cさんが中学1年生のころである。Cさんは、小学校6年生ごろより不登校になっていて、断続的に登校するときはあったが、中学校3年間のほとんどを私が勤務する市の適応指導教室で過ごしていた。高校は通信制高校に進学したが、不登校になり、町家合宿に参加するころには、フリースクールに週4回通っていた。

当時のCさんは気分の浮き沈みが激しく、自分を傷つける行為があったが、私と話をするときのCさんはたいてい人見知りなく、明るくよくしゃべる、小柄なボーイッシュな雰囲気の子だった。漫画とアニメが大好きなCさんは、絵を描くのも好きで、その話をよくしてくれていた。絵を描くことには苦手意識しかない私としては、いろいろとCさんが教えてくれる話は知らないことだらけで、新鮮そのものであった。とはいえ、Cさんは話し始めるととまらないので、適応指導教室で勉強を教えようとする私に、絵を描く（コピック？とか言う）ペンの種類について力説したり、教科書の端にパラパラ漫画を描いたりして、私は勉強をあまり好まない彼女の話やおもしろ漫画に引き込まれないよう、苦笑しつつも必死に勉強に戻そうと格闘していたことがよくあったと記憶している。

町家合宿の参加については、Cさんはお母さんからの話では、案内を見て躊躇なく参加を決めたそうである。適応指導教室で長く一緒に過ごした私がいたことと、中学校3年生のときに適応指導教室の遠足で行った京都という町になじみがあったこと、古着屋、雑貨屋めぐりがしたいと家で言っていたとのことだった。

☆1日目の様子

Cさんは慣れない場所や人ごみが苦手なので、そのことできつと電車の中でも緊張しているだろう、無事にこれるかしらと私は思っていて、改札で出迎えたときも知らない人たちがいるなかで、いつもより少しおとなしいCさんに緊張しているのかしらと思っていたのだが、感想文によると、Cさんは集合直後から35度を超えることも多い京都の暑さにこの時点ですでにやられていたようである。

このときの町家合宿参加は3名で、残りの二人はどちらかというあまり積極的におしゃべりをするほうではなかったため、一日目のCさんはスケジュールを決めるにあたって、いろいろと表をまとめてくれたり、夕飯の準備をしながら会話を弾ませてくれたりと活躍してくれていた。人生初銭湯も、なんなくこなす（ているように見えた）、夜遅くまでおしゃべりをして、就寝した。と思いきや、暑さのせい、緊張のせい、興奮のせいとかにかくまともに眠れなかったようである。他の参加者でも眠れない子がいたので、私にはその子が眠れなかったという記憶しかなく、Cさんが眠れなかったことを、この感想文を読んで改めて気づくことになった。意識的に無理をしているわけではないにせよ、Cさんが明るく振舞うことで、Cさんが眠れないことや暑さで負荷がかかっていることに、きちんと気がついていなかったことは、今にして思えば私の反省である。

町家合宿では就寝・起床時間を決めていない。自分たちの希望を元にスケジュールを決めた以上、その決めたスケジュールと自分の体力との兼ね合いで、自分で時間を決めて寝

るということをしてほしいからである。従って、たとえ何時であっても参加者が就寝するまで、スタッフはそれにつきあうことになる。深夜、昼間よりは少しだけ涼しい時間帯に、扇風機をまわし、冷たい飲み物と、夜食に作っておいたおにぎりを食べながらおしゃべりをしたり、カードゲームに興じたりするのは、本当に楽しい時間ではあるが、3日間スタッフは不眠不休に近い状態でなるので正直結構きつい（そのため今は個人的（年齢的）に完全徹夜は無理なのでそれなりに眠らせてもらっている）。



お茶は常に沸かして準備はするものの、冷やすのが間に合わないので、思い思いの飲み物を飲んだカラのペットボトルが夜中に食卓に乱立している様子と坪庭を眺める私。暑い京都で水分と帽子は欠かせない。

☆2日目

暑さや興奮で睡眠が取れない分を、無意識に食でカバーしようともしていたのであろうか。Cさんは、感想文で一貫して、食べ物のことを書いている。2日目など文の最初と最後が食べ物である。出てくる食べ物は特に珍しいものではない。いつも食べているようなものを、あるいはいつもなら出てきても食べないようなものを食欲旺盛に食べたり飲んだりしていることや、3日目は疲れで食べられなかったことを書いている。後からお母さんに聞いたところによると、合宿後に、あまり好きではなかったもやしをラーメンに入れて何度も食べていたそうだ。

町家合宿では、食事のメニューも基本的に参加者が決めることになっている。極端に言えば、食事と睡眠という生命維持に関わる行為自体を参加者に任せている。親の干渉や世間の（ある意味強迫的な）健康志向の中で、食事と睡眠を自分で決めて行うということは、意外に難しいことではないかと思う。Cさんは、そういう自分で決める自由がある中で、自分で選んだラーメンだから、普段は口に入れないようなもやしでも口に入れることができたのではないかと思うし、自分で選んだラーメンだからその後もおいしく食べられたのではないだろうかと思っている。



町家合宿で頻繁に出てくるメニュー「手巻きずし」

予算の関係で生魚をあまり買えないため、みんなでイカをさばいてみたこともある。

☆3日目

Cさんは3日目の朝に突然フリーズ（という表現しか思いつかない）した。Cさんはこの日も眠れなかったのか、3日目の朝の5時ごろから荷物の整理をごそごとと始めたため、私がCさんに声をかけ、2人で1階の共同スペースで過ごしていた。他の参加者も徐々に起きてきて、出かける準備をすすめていたそのとき、それまで感想文にもあるように、絵を描いていたはずのCさんはひざをかかえてうつむいてしまい、声をかけても何の反応もしなくなったのである。少し見える表情は能面のようであった。その後、表情はあまり変わらないものの、声かけに応じて何とか出発して、その日の行程には参加することはできたが、いつものCさんに戻るまでには数時間かかっていたように思う。その間、あまり自分から話すことのない他の2人の参加者が、Cさんに対して気遣いの言葉や行動をしていて、Cさんもそれに応じて「ありがとう」と言うなどがあり、そのことは私の気持ちをずいぶん楽にしてくれた。

Cさんが気分の浮き沈みが激しいとは、理解していたものの、明るく楽しそうにおしゃべりするCさんが、苦手な人ごみや暑さや慣れない場所で2日間過ごす中で、自分の疲れに意識を向けることができず、その結果、3日目のフリーズにつながっていたのではなにかと思う。



町家二階。暑いので、一人一台扇風機があるが、それでも寝苦しい夜はある。

☆Cさんの感想文から今思うこととその後のCさん

Cさんの感想は他の参加者に比べて長い。裏表でたくさん書いてくれている。前述したようにCさんはあまり勉強を好まないし、絵を描く姿はたくさん見てきたが、字を書くところはほとんど見た記憶がない。そんなCさんがこんなにたくさん感想を書いてくれたことはとてもうれしいし、感謝なのであるが、Cさんの感想文には3日目になるまで、感情を表す言葉がほとんどない（かろうじて「あつい」「うまい」「かわいい」「やばい」が感情に近い？）ということに最近気づいた。感情を表す言葉がなくても、楽しかったような雰囲気は伝わってくるのだが、全体的に流れるように起きている事象を書いているだけの印象がある。

私が相手への理解とそれに対する関わりを考えると、対人援助の基本ができていなかったために、3日目にCさんのフリーズが起こってしまったことには、反省するばかりではあるが、自分の身体の状態に気づきにくく、感情も表現しにくいCさんが、3日目の感想文には、「こわかった」「さみしかった」としっかり感情が表現されていたことは、町家合宿で、Cさんが、自分のことを自分で決めるなかで、湧き上がってきた自分の感情を捉えて表現できたということではないか、それが町家合宿におけるひとつの効果ではなかったかと思っている。そんなことを10年経ってこの文章を書くにあたり、気づいたしだいである。

Cさんは、その後、通っていた（私が週に1回勤務する）フリースクールに併設された単位制高校を卒業し、現在近隣市で働いている。この10年間、町家合宿にも時折参加してくれて、近況報告をしてくれたり、新たにいろんな漫画やアニメの話を教えてくれている。

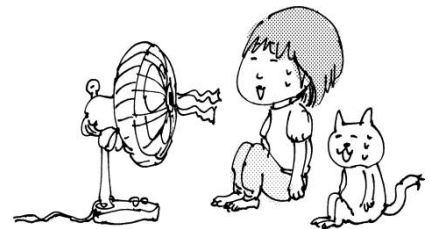
ある年の町家合宿で、大学見学をしたとき、Cさんは「(大学や専門学校に) 行きたいけど教室が無理なんやもん」とぼつりと言っていた。教室にいと、いやなことを思い出したり、脂汗が出るほど緊張して耐えられないそうなのである。それを聞いて私は、それまではわからなかったCさんの思いや感情をまた一つ教えてもらった気がした。

不登校やひきこもり経験者を対象に始めた町家合宿ではあるが、その参加者もいつのまにか新しいことを始めたり、進学したり、働いたり、家庭を持ったりしている人もいて、外から見れば、あまり変わらない様子であったとしても、本人から聞いてみると、1年の間に紆余曲折があり、何かしら変化が起きているもので、私は毎年「今、どんなことしてるん？」と聞くのを楽しみにしている。

A4の感想文用紙

町家合宿 in 京都 2016 夏の陣 感想文

氏名



足りなければ裏へもどうぞ⇒